

凜としてガラシヤ
作詞 岡直彌
作曲 山縣弘尚
編曲 益田賢治
歌い手 山田静蕉

一、比叡の峰に礼を知り
琵琶湖の水に節を知る
九曜の国に嫁ぐ朝
凛々しき美貌玉姫の
頬に溢れる真珠の粒に
悲運に光るアア影ひとつ

二、安土の城に強を知り
浪花の城に贅を知る
乱世の嵐 吹き荒れて
水色枯梗枯るとも
愛する夫の厚情の詩に
心を繋ぐアア虹を見た

散りぬべき時知りてこそ
世の中の花も花なれ
人も人なれ

三、天主を仰ぎ花を知り
十字架を胸に人を知る
天子の加羅沙凜として
威武に屈せぬ魂は
炎と立ちて夜空を焦し
永久に輝くアア星となる

うふふ

作詞 岡直彌
作曲 山縣弘尚
編曲 渡辺剛康
歌い手 小塚神色

一、あゝあの日からそうあの日から
遊びの恋と知っていた
二度目の冬別れの時が来たようね
夜又が目覚めぬその前に
ほほ笑み浮かべ別れましょうか
うふふ うふふ
遊びの恋は 悪女をつくるのよ
嘘 嘘でした ごめんなさいね
ほんとはお酒飲めるのよ うふふ

女心の奥の奥
息を潜めて 夜又が棲む
蒼き面に 血の眼
耳まで裂けし 紅の口

二、あゝあの夜からそうあの夜から
叶わぬ愛と知っていた
二度目の冬最後の夜が来たようね
夜又が気づかぬその前に
ほほ笑み残り別れましょうか
うふふ うふふ
叶わぬ愛は悪女をつくるのよ
嘘 嘘でした ごめんなさいね
ほんとは私一つ上 うふふ

赤ワイン

作詞 岡直彌
作曲 山縣弘尚
編曲 益田賢治
歌い手 三浦暁泉

一、愛めぐり会い
心にひらく赤い薔薇
いつまでもいつまでも

あなたの私でいたいのに
咲いて哀しい咲いて哀しい
あああ紅の花

ゆらゆらと心の奥に音もなく
切なくもゆる切なくもゆる

愛の陽炎

三、愛しのび逢い
唇よせる赤ワイン
このままでこのままで

あなたの私でいたいのに
酔えば虚しい酔えば虚しい
あああ紅の酒

あきる野

作詞 岡直彌
作曲 山縣弘尚
編曲 渡辺剛康
歌い手 古城精宝

一、川面にあそぶ鶴鴣と
たわむれ泳ぐ若き鮎
あの日の二人岩瀬峡
恋ははじらい恋はときめき
あきる野、秋川、恋の街
あきる野、秋川、恋の街
あきる野、秋川、夢の街
秋川の清き流れに君想う
水の心や何をか知らん

山ふところの恋紅葉

宝の山門高德寺
見上げる二人大銀杏
夢はふくらみ夢はかがやく
あきる野、秋川、夢の街
あきる野、秋川、夢の街

白雪光る石舟の

湯けむり淡い紅の橋
寄り添う二人瀬音の湯
愛はやさしく愛はぬくもり
あきる野、秋川、愛の街
あきる野、秋川、愛の街

ありがとう

作詞 岡直彌
作曲 山縣弘尚
編曲 渡辺剛康
歌い手 小池洵風

一、黒潮育ちのこの俺が
都会と云う名の荒海を
汗と涙の人生行路
励まし見つけて叱ってくれる
先輩がいた
ありがとう ありがとう
心をごめて ありがとう

二、浜風育ちのこの俺が
世間と云う名の荒波を
悩み迷いの人生行路
何も言わずに支えてくれる
女房がいた
ありがとう ありがとう
笑顔をごめて ありがとう

男富士

作詞 岡直彌
作曲 山縣弘尚
編曲 益田賢治
歌い手 丹治独風

一、アアアアアアアア
遠く仰ぐ朝陽に光る富士の山
疾風迅雷耐え忍び
不変不動の姿こそ
男の真心人の道
男の強さ吟の道
日本男児男富士

アアアアアアアア

遙か彼方夕陽に映える富士の峰
艱難辛苦受け止めて
天下無双の姿こそ
男の勇氣人の道
男の闘志吟の道
日本男児男富士

蝉時雨

作詞 岡直彌
作曲 山縣弘尚
編曲 益田賢治
歌い手 武島鳳珠

一、木漏れ日はじき水面が走る
北国の夏城下町
流れのほとりたたずめば
思わず触れた白い指
遠いあの日に目に浮かぶ
風か瀬音か蝉時雨
リリリー リリラー
心にしみる蝉時雨

二、光の渦が波間に踊る
北国の夏日本海
砂丘のほとりたたずめば
真実の愛を胸に秘め
独り生きる去りし人
波か鳴か蝉時雨
リリリー リリラー
涙にむせぶ蝉時雨

虹と星のバラード

作詞 岡直彌
作曲 山縣弘尚
編曲 渡辺剛康
歌い手 野口摂粋

一、ヒラリ 閃き
目と目が合ったその瞬間
二つのハートがはずんで揺れた
恋は七色夢の色
彼女は七色夢の色
彼方にかかる虹の橋
たとえ天地が裂けようと
二人の恋は二人の恋は
あああ永久の虹

億千万のその中で
たった一人と結ばれた
奇跡の出会い運命に感謝
春夏秋冬美しい

キラリ 煌き

二つのハートがはじめて燃えた
愛は七色夢の色
北斗に光るななつ星
たとえこの世が終ろうと
二人の愛は二人の愛は
あああ永久の星